

平成 28 年（2016 年）熊本地震被害調査報告

調査日：2016 年 4 月 26 日（火）

調査者：富岡義人（三重大学大学院・教授），川口淳（同・准教授），田端千夏子（同・助教），水木千春（三重大学地域圏防災・減災研究センター・特任助教）

調査目的：熊本地震による被害調査

調査地域：熊本県西原村大切畑地区

調査対象：大切畑地区集落および住民（主に消防団員の山口誠一氏）聞き取り調査

調査行程

菊池市発→国道 325 号線を南下→県道 36 号線南下→県道 28 号線東進→大切畑地区：
県道 28 号はこの集落付近より東（南阿蘇方面）が土砂災害のため通行止め

1.集落概況

大切畑ため池の漏水により，主要アクセス路が浸水により通行不能となり，アクセス路はあぜ道から続く道一本のみになった。全 26 世帯 83~84 名の小集落。南側県道 28 号の鉄骨橋梁側斜面は斜面崩壊している。集落内の擁壁の崩壊箇所も多数。応急危険度判定結果は集落全建物のうち，2 件が「要注意」，残り全て「危険」判定。集落入口に地区災害対策本部を地元住民が設置し，復旧作業の相談や集落の出入りを管理している。

2.聞き取り調査（消防団員：山口誠一氏）

14 日の前震の際は物が落ちたくらいでそれほど大きな被害はなく，集落全体が油断していた。ただし，消防団の車両は念のため車庫から出していたため，被害を免れた。16 日未明の本震で大きな被害を受けた。倒壊建物の中に 8 名が生き埋めになり，6 名は消防団が救出，2 名が消防本部のレスキューが救出。死者なし，重症（レスキュー救出による 1 名が腰骨骨折）。レスキューの救出も含め全員の救出・安否確認は午前 3：30 頃に完了した。

本震以降，行政にほとんど頼らず地域で 1) 重機を借りての障害物除去，道路啓開，2) 集落上方水源からの仮設水道の敷設，3) 仮設風呂の設置，4) 家財道具および車両の運び出し，5) 通行管理（防犯）および交通整理などの作業を分担して実施している。

3.集落の様子と建物被害

1) 集落遠景



右手に県道 28 号船の高架橋（通行止め）左側が多切畑集落。

2) ため池からの漏水



ため池からの漏水により通行止めになっている集落への種アクセス路。

3) 県道 28 号船高架橋と集落入り口の仮設水道



4) 集落入り口の通行管理詰所（受付）



5) 集落内の交通整理要因のパラソル



6) 住民が設置した仮設風呂



7) 斜面崩壊



左) 擁壁の崩壊, 右) 石垣の崩壊

8) 集落内の街路



右手の倒壊建物は、生き埋め者が救出された家屋

9) 建物被害



全面擁壁の崩落と上部建物の大変形



地区の公民館。残留変形の様子。



玉石積み擁壁の崩落に伴う上部建物の崩落。



重い屋根の古い構法の木造家屋の倒壊。



古い建物と新しい建物被害状況の対比



揺れによる被害がない建物。右方向が崖で、応急危険度判定は「危険」。



比較的新しく，ほぼ無被害な建物。



消防団車庫・詰所。一階コンクリートブロック造，2階木造。1階の残留変形。